

## 総社市教育委員会会議録

- 1 開 会 平成30年12月21日 午後 2時00分
- 2 閉 会 平成30年12月21日 午後 4時00分
- 3 場 所 総社市西庁舎3階 301東会議室

4 出席又は欠席した委員

出席委員

教育長	山 中 榮 輔
教育長職務代理者	林 直 人
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	三 宅 眞砂子
委 員	上 岡 仁

欠席委員

委 員	児 島 塊太郎
-----	---------

5 会議に出席した者

教育部長	服 部 浩 二
参事兼庶務課長	弓 取 克 哉
学校教育課長	北 川 和 美
こども夢づくり課長	小 野 玲 子
生涯学習課長	横 田 優 子
文化課主幹	難 波 孝 次
庶務課主幹	平 田 壮太郎

6 会議録署名委員

山 中 榮 輔	三 宅 眞砂子
---------	---------

7 付議事件

なし

8 議事の概要 別紙のとおり

開会 午後 2時00分

**山中教育長** それでは、ただいまから教育委員会を開会いたします。まず、会議録の署名委員についてであります。会議録署名委員は、会議規則第16条の規定により、私のほかに出席委員中、三宅委員にお願いいたします。なお今回の教育委員会には議案は上程されておりませんので、まず私から報告をさせていただきます。

**山中教育長** 12月20日に議会が終了いたしましたが、教育委員会関連の質問が結構多く、4割くらいありました。詳細は後ほど服部部長からご報告いたします。

それから、建設案件でビッグスリーと言っておりますけれども、総社小学校、認定こども園、調理場、この3つで、総社小学校が30億円、給食調理場が25億円、それに認定こども園が8億円と、70億円近い投資がこの3年間で行われておりまして、この内容についても後ほどお答えします。総社小学校は来年3月から、認定こども園は4月から開始するということになります。調理場は夏休み中に試運転が終わり、9月から稼動ということになります。

それから31年度の保育所入所ですが、かなりの待機児童が出るかどうか微妙なところでありまして、幼稚園の預かり保育とセットにしてどれだけクリアできるか。結論から言うと保育士不足によって待機児童が出るということでもあります。

また、復興ビジョンの案を年末までに作って、来年3月までには復興ビジョンを実行する計画を作っていきます。5年計画となりますが、豪雨の対応も含めて進めるという予定であります。

**山中教育長** ご質問がありますか。

(質疑なし)

**山中教育長** それでは報告事項として、11月定例市議会の報告をお願いします。

**服部教育部長** 【事務局説明】

**山中教育長** ただいまの事務局の説明に対するご質問等ありましたらお願いいたします。

【質疑・答弁】

**上岡委員** CAPプログラムは、今、県の人権教育課が2分の1補助事業かなんかでやってますかね。使ったらそれを事業として認めるというのが昔からなんかあったような気がするんですが。

**小野こども夢づくり課長** まだあるはずです。

**上岡委員** 幼稚園でもできるんですか。

**小野こども夢づくり課長** それは小学校以上が対象で、幼稚園はないです。

**上岡委員** ないんですね。部活動のことなんですけども、総社市の部活動はそこまでではないと思うんですが、部活動で頑張る子がいても良いことなんだけど、やっぱり学校は勉強するところなんで、勉強が一番だと思うんです。勉強で活躍できない子が部活で頑張るというのは大切なんだけど、部活が主になってしまったらいけないと思うんです。全体の学力が上がらない根底にも、そういうところにしっかりと学校が目向けるべきだと思う。働き方改革もそうな

んだけど、その前に学校の子どもたちに学力をつけるというのが基本だという意識が必要ではないかなあとと思いますね。だから土日と、あるいは平日を含めて2回休むという、その基本認識が必要ではないかなあと。親に対しても、もちろん先生にもですけど、そこが変わらない限りは難しいのかなあとと思いますね。どう思われますかね。

**服部教育部長** 確かに中学校の部活動というのは学校教育の一環でやっておりますので、何もトップアスリートを育成するための活動ではありません。ですから、ある程度の節度とか学業を優先した中で行われるべきだと思います。その一方で、歴史的にも総社の中学校の部活動は非常に優秀で、いろいろなところで今までも好成績をとっております。吹奏楽にしてもそうです。本当に先生方が一番大変だと思いますが、いろいろな指導を積み重ねて、いろいろな活動の成果を持っていらっしゃる。今日の新聞でも体力テストの結果が出ておりましたけれども、中学生が非常に高いところにあって、部活動が多少影響しているのではと思います。いろいろな体力とかチームワークとか、教室の外で行う活動としての意味合いは本当に大事だと思いますが、これも程度の問題です。本当に休みなしで先生も子どももやってるような活動も実はあつたりすると思います。自主的な練習だとかで家に帰ってからもいろいろな活動をされるということも聞きます。これは非常に辛いことに、中学校になってなかなか学力の成果というのが全国テストとか県のテストとかで見るとやはり弱くなっている。小学生で非常に順位的にも優秀な数字ですけども、中学に入るとなぜかそこまでの数字が出てこない。よくよく見ると家庭での学習時間がなかなか確保できていないのが問題であるということも分かっております。それと部活動との関連はどうしてもあると思いますので、そのあたりを文武両道が本当は良いんですけども、現実的に学力のほうの課題が出てきておりますので、委員がおっしゃるようなことというのは、先生方の働き方改革だけではなくて、本来の学校の活動の中で、どれを順位付けとか整理していくかというのは今までも課題でしたし、今回このような指針をお示しすれば考える機会にもなりますので、そこで親御さんを含めて部活動のあり方というのを考えていただいて、本来あるべきところへ動いていただければ良いかなあとという気がしております。ものすごい熱心な親御さんもいらっしゃいます。先生方の中にもすごくやりたい先生もいらっしゃれば、専門でもないのに顧問になって大変という先生も実はいらっしゃってですね、そのあたりのちぐはぐ感とかむらがかかなりありますので、そのあたりを、少しあるべきところへ修正していけないかと教育委員会としては思っています。ただ、どういった反応というか、これからこうなさいということが初めて示されますので、どういったご意見が返ってきて、こうしたとか、ありがとうっていう話が出るかも分かりませんし、そこは、反応を待ってみてというところを思っております。本当に中国大会とか全国大会とかを目指したいというような子どもさんの気持ちを失わせたくないというのも少しありますし、やりたい子にはやらせてあげたいというのがありますし、ただそれが過度の負担になって、みんなが引きづられてもおかしいなという気がしています。

**上岡委員** 中心は学業だということが徹底されないとなかなか難しい。いろいろなお子さんが

いて良いですし親御さんがそれを応援するのもありなんですけれど、それにみんなが引っ張られたらそれはちょっと違うんじゃないかなと。社会スポーツというのは必要だろうと思うんですけど、そういうふうな文化というか雰囲気は、極端にはなっていないから総社市はまだいい。極端な市町村は結構あるかなあとと思います。健康面も標準以上だし勉強もできているんだから総社市は良いと思うんですけど。そうは言っても、例えば吹奏楽の先生になったらもう家庭を顧みずに奥さんに、もう自分はこれに打ち込むんだからとか言ってですね。そういう犠牲的になってることも知るべきでしょう。手当てが1日出るとしたら4800円くらいかな。昔は3000円でしたからね。1日当たり4800円、それで家庭を、自分の子どもは見ないでやってくださってるわけですよ。その辺の実態を知っていただくことも必要ではないかなと。吹奏楽部の後援会の方たちからはものすごく感謝されるんですよ。その気持ちに伝えてやろうという。で、何かそれで良いのかあとという気持ちもあります。自分のことを振り返れば、僕は東中に行って最初に顧問になったのは、もちろん第3番目の顧問なんですけれど、監督がいてね、それからコーチがいて、野球部やってくれと言われて。野球なんかしたことないんです。で、試合に行ったら2番目の人が家庭の事情で来れなくなった。そこで監督さんが一塁の塁審してくれって言われてやった。自信をもってやれば良いと言われて。その時代だったら良かったかも。思い切ってセーフとかするんですが上のほうでブーイングが、えーっとかあって。でもその頃は審判が言うんだからそうだと許してくれたんですけど、こっちは冷や汗もので、二度とやりたくない。またバドミントンにも行ったんですよ。バドミントンも遊ぶくらいでやってたことはあるんですけど、スポーツ部のバドミントンではちゃんとした技術がいるわけですよ。全然教えられないですよ。だから引率で行った時には困った。あと、新採用の女性の先生が吹奏楽部の担当になったんです。土・日に出て行くわけですよ。やっぱり心的な病気になりましたけどね。考えて調整してですね、本当のことは書けないのかも分からないですけど、学校教育だけでなく実態を把握していただければありがたいなあとと思います。適材適所で、できないところはほかでいい。国は外部指導員ですかね、かなりそれを導入して引率もできるようになっているわけで、どんどん使って欲しいなあとと思います。

**山中教育長** ほかに何かご意見がありましたらお願いします。

**林職務代理者** 今回本当にたくさん質問が出て大変だったなあとということですね。新しいことをやろうとしても、何か難しいような気もしますけれども。根馬議員の貧困率を下げための政策とか、市長が答えるようになってるんですけど、どう答えられたのかネットでみたんですけどもなかなか難しい。またエアコンの風が直接当たって児童が被害とかそんなことがあるんですかね。もう1件、高谷議員が総合教育会議でも触れられてるんですけど、これなんかもどういうふうに答えられたのかなあとと思ひまして。ちょっと気になりましたので。

**服部教育部長** まず貧困のご質問ですけど、実はこれは福祉部門が担当しないといけない分野なので、こども課が答弁を作りました。そもそも貧困とはどういう人たちを捉えて言うのかというところからいろいろ議論がある問題でして、一般的には子ども食堂の話がされたかった、

あるいは学習支援とか進学とかの支援とかをやはり視野に入れたご質問でした。そういった活動は実際にはもうさせていただいております。貧困率には捉え方がいろいろありますが、当然勉強したいけどできない、あるいは、本当に食べることに困っているようなお子さんがいるんじゃないかということで行政として何かしないといけないことがございますので、そこはいろいろな部署で主に福祉系の部門でやってはいますけれども、トータルでどうなのかというご質問でした。

**山中教育長** 直接的には言ってない。間接的に教育を受けられない状況にあるとか、そういう人たちをどうフォローするかという視点で答えています。

**服部教育部長** いわゆる学習支援のようなことは、今も社協とかにいろいろな委託事業をして、そこでやってるんですけども、ただ、どれくらい居るのかというのは多分分からないので、まずもって話になってるんだと思うんです。本当はこれを掘り起こしたりしないと分かりません。逆にそうなんですよと目を向けると非常に失礼なことになる可能性があります。なので、そのあたりを本当に慎重にやらないといけないのかなと思います。

それからエアコンに当たって皮膚に影響が出たということ。実は、よく分からないんですけど、アレルギーの子どもさんがエアコンのダストで影響がでたみたいなことで、フィルターがうまく清掃できていなくて、そういうことがあったということで、学校の先生方に確認してみても直接的な原因がそこだということもないようです。ご承知のとおり議員の方がご質問されるのは、しないといけないのにやっているのかというがあったりします。マムシ対策はどうしているのかというのも前にあったんですけども、山手の幼稚園と小学校は南側に山の斜面があって、シーズンで10匹とか出るんです。マムシとかですね、毒を持っているのも結構いて、幼稚園からも何とかして欲しいというのがあったんで、ご質問をいただきました。さすがに、自然に生きているものは仕方がないというのもあったりしますが、側溝みたいなものをグラウンドと山の間に設置すればあまり上がって来ないというのも地元の方もおっしゃっていただいているので、少々お金は掛かりますけれども、やってみようかなと思っております。

**林職務代理者** 総合教育会議のことは。

**山中教育長** 本来は、市長と教育をやっている教育委員会とがコミュニケーションの場を持ち意見を言うということ。市の職員は市長と直接話ができるので、日常的に市長には情報が入っているんですけども、ダイレクトに市長が校長に話をしたいというのがあるので、校長会での市長講話などでそのような場を作っているという答えをしました。総合教育会議の主旨は、学校現場と市長との連携がうまくいくようにという意味合いが強いという答え方をしました。

**服部教育部長** 総合教育会議自体は、なかなか開催ができていない実態もありますので取り上げられているということもあるんですが、非常に申し訳ないんですが今までに2回しか開けていません。この会議の主管というのは総合政策部になっていまして、1回目は教育大綱を定めるときにお集まりいただいたことがあります。もう1回というのは市全体の総合計画を作るときにご意見を聞きたいということで開かせていただいたということです。その後開けてないの

は、少しこちらの怠慢もあるかもしれませんが、市長としては学校長とか教育委員さんとかとコミュニケーションを図りたい、そういった場ができるのであれば、この総合教育会議という場にあまりこだわらないという言い方をされてましたので、逆に我々は例えば教育委員会、教育委員の皆さまと校園長会の皆さまと一緒に話をするような機会があっても良いのかなあと思ったりもしますし、そこへ市長とか来ていろいろな話をさせていただいても構わないかなあという思いもあります。要するに、教育に関していろいろな現場とか方針とかをご検討いただけるよう、皆さまが連携してコミュニケーションを図れる場を作れば良いかなという思いもある中で、総合教育会議のメンバーはご存知のとおり、教育委員、教育長、市長なのでなかなかスケジュール調整がきかないということもあるんですが、できればもう少しいろいろな方に入っていただいた中でやらせていただくのが、いろいろな意見が聞けて良いのかなあという思いもあります。

**三宅委員** 先ほど出ましたワンステップ事業についてですが、小学生対象とそれから中学・高校対象とあるんですけど、小学生対象は「あいあい」がされていて、こんな感じで参加児童を募集しますというチラシがあります。この前行った時に配ったのが生活保護世帯と児童扶養手当の全額支給世帯ということで、非常に対象が少ない、総社小学区と常盤小学区の10名程度だそうです。その対象者が小学校4年生から6年生までの居場所づくり、学童保育が3年生まであるということで小学校4年生からになったらしいんですけど、ただ運営しているNPO法人与学習の習慣を付けるという意味では小学校1年生から対象にしたほうが良いのかなという話しができました。4年生からといたらなかなか参加する人も少ないということで、ワンステップという居場所づくりではなく、学習支援という意味合いで、小学校1年生から対象にしていたら良いのかなというふうに感じています。先生方も大々的に参加を言うことができないと思いますが、該当する方がいらっしゃったらどうぞという感じでやっていただきたい。来年度も続けるということですが、本当は1対1で退職された先生とかがその子に合わせて指導していくとか見ていってほしい。今は学習だけでなく障がいがある子も来られていますけど、その時間は楽しんでいます。

**上岡委員** もう1つよろしいでしょうか。山田議員が質問されている総社市子ども子育て支援事業計画、これはどういうふうに答えられたんですか。

**服部教育部長** 子ども子育て会議というのはこども課が主管している会議で、保育とか子育てに関係する組織の代表者の方で組織されており、年2回程度開催しております。このご質問の主旨は5年スパンで計画を作っていますが、ちょうど平成32年度から第2期計画に入るといふことで、新しい子育ての方針をこういったところで定めますので、今後どうやって作っていくのかというようなお話でした。前段のご質問の休日保育にも関係するところもありますが、例えば保育の需要とか学童の需要、それからもろもろ子育て環境に関するいろんなテーマを話し合える場ではあるので、それをこのような会議を通してどういった計画にしていくのかという割と手順的なことをお尋ねになりました。中身については本当に様々なので、今までの第一

期の計画でやっていたことの検証の部分は当然ありますけれども、例えば保育で言うと待機児童を出さないとか待機児童をゼロにするなどの目標項目が第一期の計画の中にもありましたので、その部分ができていない部分、できていない部分、それから課題についてどういった意見の集約とか2次調査をするかということとかご質問の中に入ってきていましたので、そういったやり方を例えば31年度がそういった調査期間です。で、それを取りまとめた会議を通して第2期の計画が32年度から始まりますというようなことを申し上げたと思います。中身というよりも手順とかどういった作業をするんですかということに多分ご興味がおありだったようで、要はいろんな意見を聞いてほしいということが背景にあるんですけど、そのことをご質問のやりとりの中にあつたような気がします。

**山中教育長** 背景にあるのはお母さん方が働かれるということがベースにあると思います。今のままの状態では、幼稚園には行けても保育園には行けない。保育園がいっぱいになったときどうするか。その後、小学校に入ると、学校から家に帰ったときに両親がいないとか、そういった社会的な要因がベースにある。そのときの対応をどうするかという、多分そういうところが根本にあると思います。そのことがベースにあつて、質問されたんじゃないかなと思いました。総社市の場合は転入者の比率が高い。山手小の場合は7割から8割です。

**山中教育長** ほかに何かありますか。

**三宅委員** エアコンの風で調子が悪くなったというのは、風が直接当たって気分が悪くなったという話しですか。

**山中教育長** そういうことではなく、風に菌が飛んできたんじゃないかと、ごみと一緒に。

**弓取庶務課長** ハウスダストのアレルギーを持っているお子さんで、皮膚にぶつぶつが出たということで、ちょうどエアコンの近くにいたみたいです。直接、風に当たったというよりもほこりが原因ではないかということでしたので、すぐにエアコンのフィルターを掃除しました。通常、各学校は空調設備については定期的に清掃しておりますので、そういった配慮、あとは風に強い弱い子がいますので、席の並びとかの配慮を各学校で対応していただいているところでは。

**服部教育部長** エアコンが付いたら付いたで電気代の問題もありますし、フィルターをちゃんと掃除しているかという維持管理の問題もあるので、やればやるだけいろんなことが起こります。

**山中教育長** よろしいでしょうか。

(質疑なし)

**山中教育長** それでは次に総社小学校の改築、新給食調理場、認定こども園について。

**弓取庶務課長** 【事務局説明】

**山中教育長** ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

**上岡委員** 総社小学校の解体はいつからいつまででやるんですか。

**弓取庶務課長** 総社小学校の解体でございますが、来年3月から9月末までの間に解体をする予定です。解体終了後は、今度はそこに運動場と駐車場、そういったものを整備していく計画にいたしております。

**林職務代理者** 総社小学校の敷地のところに放課後児童クラブを建てるということに多分なってると思うんですが、あれはいつできるんですか。

**弓取庶務課長** 場所のほうは確保いたしております。ちょうど敷地の南東の部分に場所を確保しておりますが、まだ全体工事が終わっていませんので、新しい校舎、運動場、駐車場整備を終えてからの話しになるかと思えます。

**山中教育長** 32年度工事でやります。今は、総社宮のなかに間借りしている状態で、児童もいっぱいです。できるだけ早く総小に移さないとないといけない。そのために現場に行ってスペースをチェックしました。平田主幹からどれくらいの寸法でどれくらいの大きさか説明願います。

**平田庶務課主幹** 敷地の南東になりますけど、20m×8mの2階建てで、延床面積320㎡です。

**林職務代理者** 定員は何名ですか。

**平田庶務課主幹** 現在は120名定員ですが、少しは緩和されると思えます。

**山中教育長** 欠席ローテーションは。

**林職務代理者** 今は欠席ローテーションですよ。それは解消されるのですか。

**山中教育長** それは解消すると思われる。

**林職務代理者** 対象を6年生まで広げるかどうかはちょっと無理ですか。

**山中教育長** そこは様子を見ながらになると思うが、できるだけ大きいスペースを作っておく。だから2階建てにしないとどうしてもスペースがとれない。

**山中教育長** ほかに何かありませんか。

**上岡委員** 新認定こども園の申し込みとか出ていますか。

**小野こども夢づくり課長** 11月末で受付を終了したところでございます。

**服部教育部長** 申し込み状況は、このあとの報告事項でご用意しておりますので、そこで説明させていただきます。

**山中教育長** よろしいでしょうか。

(質疑なし)

**山中教育長** それでは次に特別支援教育の現状について、事務局から説明をお願いいたします。

**北川学校教育課長** 【事務局説明】

**山中教育長** ただいまの説明に対するご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

**林職務代理者** 1つだけ良いですか。教育支援委員会の判定の方法についてですが、書類審査をどうするか、それは継続してそういった形で引き継いでいるわけなんですか。

**北川学校教育課長** 今年度、大きく変わったところは、委員の先生に、倉敷地域では非常に有



名な先生に教育長自ら足を運んでいただいて、委員長になっていただきました。

**山中教育長** 名前は倉敷成人病センターの御牧先生です。

**北川学校教育課長** まず、最初の会議を4月に開きました。そのとき、どのように判定に持っていくのが良いかという共通理解を図らせていただきました。その中で今までは書類だけをもって判定していましたが、専門部会をおくことができるというものがあまして、その専門部会にいわゆる専門家チームを作って実際全員を見ていく、同じ目で同じ尺度で感じたものを提供していただく。そういう1つのスケールと言いますか、それを教育委員会の資料として提供するべきではないかということになりまして、それがきらりと連動いたしまして、そういう専門的な知見を持った方々によりまして、その実際の場面、1回で良いのかという話しになりますので、要望があれば複数足を運び、状況を見て、そしてその資料を提供するというのと、加えて、ワークシート、各学校園から普段の状況を同じように審査のテーブルにお出しすることにしました。それらを見ていわゆる検討を加えていっていただくと、そういうことになります。

**林職務代理者** 非常に実態に沿った形で資料ができるのかなあと思いますけどね。

**山中教育長** できるだけ定量評価ができるようなチェックシートにしています。御牧先生は権威ですから、岡山県の教育のリーダーもやっておられましたし、2回ほど行ってお願いしたんですけれども、今年はなかなか来ていただくことができませんでした。来年度以降来ていただけるかは分かりません。

**北川学校教育課長** 加えて少し良いですか。実はこの専門部会を正式に4月に設置したんですけれども、実は昨年度から専門家チームを立ち上げて提供させていただいたということになります。その中で委員さんの中に、医者や診断書があるのにも関わらず、通常の学級では無理だと、特別支援学級が適当であるとそうなるのに、それを軽視するようなことをして良いのかというような議論も喧々諤々と言いますか、教育支援委員会の中でいろんな委員さんのご意見が出て、現状のインクルーシブ教育の視点も大切であろうということで、昨年度の教育支援委員会から意見をいただきました。今年度は先ほど言ったように、御牧先生にもそれで良いと、そして専門部会をきちんと位置づけることでやっていこうというお墨付きをいただきながらこの判定になっております。特別支援学級、通級が適当、あるいは通常の学級でと判定された後、そのモニタリングをきちんと取らないと、判定は出たけれど不登校になっている。あるいは、適応状態が非常に悪いと、こうなってしまうのは元も子もありませんので、それはきらりの方に定期的に行っていただいて、適正に判断していただいているという状況を確認した上で今年度の教育支援委員会の判定を出していただいているというところになります。

**林職務代理者** 非常に良い感じだと思います。実はインクルーシブ教育を進めるに当たって、そのことを教育する教員の質の向上、それから検証ですね。これをセットで考えていかないと高まっていかないんじゃないかなと思いますけどね。

**北川学校教育課長** そのことにつきましては同じようなご指摘をいただいているところであり

ます。今年度は高橋あつこ先生という、いわゆる早稲田大学でUDLの考え方を取り入れた手法を年3回来ていただいて実践を通しながらインクルーシブ教育に近づくことを取り入れていきますし、中央小学校がユニバーサルデザイン教育で、桂 聖先生という有名な先生に来ていただきながら、通常の学級における特別支援教育のあり方、この質の向上は市教委としても注視して関わっていかないといけないと思っています。

**上岡委員** これを担当されている先生は誰なんですか。学校教育課で言えば。

**北川学校教育課長** 西尾です。前年度までは貴志が担当しておりました。貴志が教頭で出ましたので、今年から西尾が担当しています。

**上岡委員** 専門性はいかがですか。

**北川学校教育課長** 彼女は私が総社小学校で初めて特別支援学級を持ったときに通常の学級におりました。特別支援学級でてんやわんやしていた私が通常の学級に行ったら、その学級の中で溶け込んで、本当にその年から通常の学級の担任だったんですけれども、なんて上手に溶け込んでいるなあと第一印象を持っております。それ以後、総社小学校の中でも特別支援学級を担当したと言っていましたし、総社東小学校でも特別支援学級の担任をいたしまして、専門性という意味では非常に勉強されて、熱心に取り組んでおりますので、専門性はあると考えております。

**上岡委員** 私が言いたかったのは1人で大丈夫ですかということ。これだけ支援委員会の資料を作ってですね、判定まで持って行って、あと周知ですね。親と両方もらわないといけないんでしょ。1人で大丈夫ですか。おそらくほかの先生もその時期になったら忙しい思うんですけど。

**北川学校教育課長** 去年は貴志が遅くまで残って、一緒にいろいろとやってきたんですけれども、今年は学校教育課に県から派遣職員を1名いただきました。在間と言いますが、新しく入ってきましたので、在間にもこの教育支援委員会をフォローするような役割を命じました。と同時にきらりに教頭に出た貴志が留任のようにサポートしていただきましたので、そういった意味では去年の1人体制のときよりはやりやすくなってきた。ただベストとは思っておりません。まだまだ、どういう連携がいるかというのは課題です。

**山中教育長** 特別支援学級というのは個別なんですよね。個別にやってるから横の連携がない。校長先生も意識の高い人と高くない人がいる。そういうところで今のきらりというか特別支援教育センターの一員と言いますか。兼務辞令を出したらどうかと思ってるんですよ。また、そうすることによって今、貴志教頭が行っても「ふ〜ん」みたいな感じなんです。要するに評価権限がないから。だから、それをクリアするためには、評価権限を貴志教頭に与える。そのためには兼務することが大事だと思っています。貴志教頭もちょっと大変だけど、そうすれば我々の考えていることが全体に広まっていく。

**上岡委員** 教育長が言われているのは専門家の1人としてカウントするということ。

**林職務代理者** 北川課長も専門家ですから。中にいるときに、そういったところで専門家として出て行くと高まっていくのかな。より一層ね。良い取り組みというか。

**山中教育長** 是非そういうことをやってレベルを上げていきたい。ただローテーションがありますので、そういったところも考えていかなければいけない。

**林職務代理者** 県の教育委員の会議で、総社市はいろいろしてますねって言われて、うまく説明できなかったんです。特別支援教育部会に出席したんですけども。

**山中教育長** 支援の状況を上手にデータにして渡した方が良いかもしれない。こういう取り組みをしているというものがあれば良いが、忙しいのでなかなかできない。人事の時期が終わったらまとめた方が良い。

**上岡委員** 転入者が結構いるみたい。これは本当の子育て王国になっていっている1つの証しだと思います。そうじゃなかったらいけないので。子どもを育てやすい環境にあるまちなんだという認識で、周りの自治体が見ているのは良いことじゃないかなと思います。

**山中教育長** ありがとうございます。それでは次に部活のあり方について、お願いいたします。

**北川学校教育課長** 【事務局説明】

**山中教育長** ご質問ご意見がありましたら、お願いいたします。

**上岡委員** 国が認めているというか推進している部活動指導員は30年度はどのくらい入ってるんですか。

**北川学校教育課長** 7名です。東中3名、西中2名、総中・昭和中が1名ずつです。

**上岡委員** これは国が2分の1負担してるんですか。

**北川学校教育課長** 国と県と市が3分の1ずつ。この部活支援に対する学校からのニーズが、有難いと、もっと増やして欲しいということです。ただ支援員を配置するという事は国のガイドラインを守りなさいよというふうに言われておるところですので、そういったところもありましてこういう方針を策定しております。

**上岡委員** もちろん国がこの大本を作ったから、それだけに守りなさいということですね。

**北川学校教育課長** 国と県はほぼ変わらないと聞いておりますので、我々は県との比較で作りましたので、県との比較になりますが、県との差はありません。ほぼ国と同じ考え方です。

**上岡委員** 部活動は良いことなんですけど、学校文化を変えようと思ったら、やっぱり部活動を頑張ったからそれも大切なんですけれども、何回も言いますが、中学校の学校文化を変えようと思ったら、さっき言ったように、学業で頑張った子が認められるべきだと思います。もちろん不登校になったりといろんな子もいるんですけど、そこが今崩れているわけで、崩れかけているわけで、基本を省みて、幅広くニーズの対応はしないといけないと思います。私は、そこはもう1回確認して欲しいなと思います。校長先生の意識がどうなのか。部活も頑張れっていう感じなんじゃないかな。両立というメリハリも大事ですけども、主は勉強なので、そういう考え方を持たない限り難しいかなあとと思いますね。

**林職務代理者** いいですか。中学生とか高校生の世界的な活躍をしている状況を見たときにですね、親の意識としてはですね、いやいやうちの子もですねとなってもしょうがないんじゃないのかなと思うんですよね。そうするとそれは部活動の指導者にも期待が寄せられると。しかしな

がら上岡委員が言ったように学校がどこまでやるのかと言ったときに、やはり、それよりも上を目指す受け皿というのか、そういった整備が社会的になされているというのが良いんじゃないかと思うんですけど。藤岡郁海基金を見てみると、とても優秀な子が総社市にいっぱいいますよね。

ですから、そういう子を育てる土壌は多分プロなんかが付いているんじゃないかと思うんですけど。そういうふうなところと連携してやったらどうなのかなと。連携というかお願いするとか良いなんかことができないのかなとそんな感じがしますけれども。他市で聞いたことがあるんですけども、そうしたらどうも学校とそういった指導者との仲が悪いとかあって、うまく結果に結びつかない場合もあるんですけども。やはりそういった子を、それぞれ学力で伸びる子もいるし、両立、それが一番理想的じゃないかと思うんですけどね。それからこの方針の中に、先生用方針なんだろうと思いますが、子どもに学力を付けるのかというところも何かあっても良いと思うんですけどね。つまり自分のコンディションをいかに知ることというふうな教育をすとか、それからタイムマネジメントですね。いかに効率よくやるようなことをやるとそういったのも合わせて部活動の本当のあり方を達成できるのではないかなと。こうなさい、あしなさいだけではなくて、子どもたちは一体どうしたいのかという子ども目線の部分があると、そことの関連で考えるとこうなんだなと先生方は理解していただけるのではないかなと思うんですけどね。

**北川学校教育課長** 理解しないといけないかなと思います。まだ試行期間として位置付けておりますので、持ち帰りまして、担当ともそういった部分で検討させていただきたいと思います。

1点目の競技体育と言いますか、もう本当におっしゃってくださったとおりで社会教育と言いますか、元々育てていただいている専門性の高いところは、これからも大事にしなければいけないと思いますし、例えば中学校の部活で限られた時間でやって、その後、こちらで言うと生涯学習課になるのでしょうか、そういうところとの連携がどのように取れるか、今後も研究していく必要があるというふうに、中学校の校長が言われております。あくまでも学校でしなければいけないこと、それからもっと余裕があってできるお子さんに対するケアについての政策については、引き続きいろいろ検討していきたいと思います。

**山中教育長** よろしいでしょうか。

それではその次、保育所の申し込み状況について、お願いいたします。

**小野こども夢づくり課長** 【事務局説明】

**山中教育長** ご質問ご意見がありましたら、お願いいたします。

**上岡委員** 秦に小さい保育園が2つあるんですね。第二すずらんとすずらん保育園と。定員がこの前園長先生とお話したら満たない。市内のほうはもの凄く多いんですけど、田舎なんで申し訳ない。人数が思ったより申し込みが少ないというようなことを言われていたんですけど調整はされるんでしょう。でも調整はしても行かなきゃね。そういうことは何か良い方法を考えられてるんですか。

**小野こども夢づくり課長** やはり川西のほうの保育園が希望者が今回で言いますと、すずらんの

定員が60名、第二すずらんが85名なのですが、第一希望の申し込みは、すずらんが1名、第二すずらんが4名という数字になっています。今、入所率としましては83%、90%というところではあるんですが、私たちの対策としては、4月の時点の入所率を120%がマックスで今いけるんですけども、そこを去年は115%に抑えてなるべく均等に市内の保育園に入所できるように配慮してきています。

来年度は115%では、もう少し上げてくれという要望もあるので、118%で設定はさせていただいておりますが、なるべく川西の方はすずらん、第二すずらんの方へお勧めするようにはしていますが、なかなか難しいところです。

**上岡委員** ミスマッチになりますからね。

**山中教育長** ほかに何かございましたら、お願いいたします。

(質疑なし)

**山中教育長** よろしいでしょうか。

では次に、第4回総社芸術祭2019について、お願いします

**難波文化課主幹** 【事務局説明】

**山中教育長** ご質問ご意見がありましたら、お願いいたします。

(質疑なし)

**山中教育長** よろしいでしょうか。

それでは三宅委員からインフルエンザの状況について、お願いいたします。

**三宅委員** 【インフルエンザの感染状況を報告した。】

**山中教育長** ほかに何かありますか。

**横田生涯学習長** 皆さまのお手元に、婦人大会のチラシと招待のチケットのほうお配りさせていただいております。1月26日(土)午後でございます。お時間がありましたら是非お越しくたさいませ。それからすでにお届けさせていただいております成人式のご案内。1月13日(日)午前10時からでございます。今年は約820名が対象者でございます。こちらもお時間よろしければ是非、成人式見てあげてくださいませ。よろしくお願いいたします。

**山中教育長** ほかにありませんか。

(質疑なし)

**山中教育長** それでは、次回の教育委員会の日程について、ご説明のとおり、1月25日(金)午後2時から開催いたしますので、ご参集願います。

この際、2月の教育委員会の日程を調整したいと思いますですが、提案をお願いします。

(2月の教育委員会について日程調整)

**山中教育長** では、2月の教育委員会は、2月18日(月)午後2時から開催いたします。

では、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

【閉 会】

閉会 午後 4時00分

上記記録している内容は、正確であるので署名する。

平成 年 月 日

教育長

委 員

職 員